



JUNE



おかむら通信206号

令和4年6月号

ご挨拶

みなさまこんにちは、世の中や自分の事を考えると、毎日が果たしてこんな生き方でいいのか、と反芻するこの頃ですね。院長はもう身を引くか、または最後の一息まで突進か？考えてしまいます。やめることは考えていませんが。

今月の言葉

高い塔を建てなければ新しい地平線は見えない。

JAXAスタッフマネジャー

庸介先生の勉強会

第3回 内視鏡検査について（今回は胃カメラ）※2022/05/13記載

お久しぶりです。皆さんいかがお過ごしでしょうか。正直もうコロナには飽きましたよね。とは言え、まだ1000人に1人は重症化して2000人に1人は亡くなるようですので、やはり気をつけた方がいいのは間違いなさそうです。60歳以上の方は4回目のワクチンも打っておいた方がいいでしょう。

さて今回からは内視鏡シリーズです。当院には胃カメラ＝上部消化管内視鏡と大腸カメラ＝下部消化管内視鏡があります。まずは胃カメラから。胃カメラは食道と胃と十二指腸を観察する検査です。細いカメラですので鼻から挿入しますが、別に口からでも構わないんです。以前やったことがあって、口からの方が楽だった人はそうおっしゃって下さい。まあ基本的には鼻からの方がオエオエしにくいとは言われていますけれどね。

癌については以前お話ししたので今回は良性疾患についてお話しします。食道でよくみられるのが食道裂孔ヘルニアと逆流性食道炎です。食道裂孔ヘルニアは食道と胃のつなぎ目がゆるくなっている病気です。普通は閉じているので逆流しないんですが、ユルユルなので横になるとこぼれてしまうんです。花瓶を横に倒して水がこぼれてしまうイメージですね。逆流性食道炎はそのヘルニアなどが原因となって胃酸逆流によって食道側に炎症や潰瘍ができてしまう病気です。こうなると胸やけがひどくなったり、みぞおちも痛くなります。ガスターとかパリエットとかタケプロンとかの制酸剤を処方します。

胃で良く見られるのが、萎縮性胃炎、表層性胃炎、胃ポリープ、胃びらんなどでしょうか。萎縮性胃炎は2つのタイプがありますが、よくいわれるのがピロリ菌によるものです。胃の出口から始まって入り口に広がっていきます。胃癌、リンパ腫、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因となるので除菌しておくが今の流れです。表層性胃炎は字のごとく表面が荒れている胃炎です。たまに心窓部痛の原因にもなります。胃ポリープは2つに分かれます。胃底腺ポリープと胃過形成ポリープです。胃底腺ポリープは癌にならないので放置してよいのですが、胃過形成ポリープは大きくなるので経過観察が必要です。十二指腸に入り込んだり、出血したりする場合は切除することをお勧めします。また、今は胃底腺ポリープによく似たラズベリー型ポリープもあり、これは癌の可能性があるのでよく観察する必要があります。

胃びらんは潰瘍の手前みたいな感じですね。これも胃の痛みになる可能性があります。症状によってはやはり制酸剤を処方することになります。

とりあえず今回はこれくらいにいたします。ではまたごきげんようです。





院長より

1最近思うのは、昔から主張している「総合診療についてです。」何故、日本ではいまだに医師たちは患者さんを全身でみる、こころ、精神、体調、免疫力、そして脳、心臓、内臓、腸管、婦人科臓器、小児疾患、血管系、呼吸器、そして難病とかいうように全体を総合的に診るのが苦手なのか？各専門科の力量には及びませんが、より正確に早く診断し治療へ向かうことができるいろいろ患者さんのためになるし、医療費の無駄がはぶけるとおもいますが。

～5月、院長のWEB講演会～

- 05/(木) 「帯状疱疹・ゴーシュ病・HAE（遺伝性血管浮腫）などについて」
- 10/(火) 「非がん性疼痛」オキシコンチンTR薬などの投与について
- 12/(木) 松飛台小学校職員及び生徒内科健診　松飛台小学校にて
- 13/(金) 「心不全パンデミックを見据えた治療介入の重要性」千葉北総病院循環器内科教授
- 20/(金) 「慢性腎臓病における貧血管理の重要性」東葛クリニック病院
- 16/(月) 「温度感受性TRPチャンネル」{大腸手術と漢方薬} 生理学研究所・細胞生理研究部門教授、福岡大学医学部消化器外科教授
- 17/(火) 「心不全におけるSGLT2阻害薬の有用性」江戸川病院内科
- 19/(木) 「未病の概念と漢方薬によるアプローチ」日高徳洲会病院 サイエンス漢方処方研究会院長/理事長
- 24/(火) 「脾頭十二指腸切除後の胃排泄遅延、経腸栄養」順天堂大学医学部練馬病院、順天堂大学医学部肝胆脾外科助教
- 24/(火) 「胆道癌の診断と治療の実態」千葉大学臓器制御外科教授
- 25/(水) 牧の原小学校職員及び生徒内科健診　牧の原小学校にて
- 25/(水) 「肝臓領域の最近の話題と肝臓学会の将来/C型肝炎治療の残された話題/肝がん治療の今後/B型肝炎・NASHの治療も含めて」虎ノ門病院顧問
- 27/(金) 「潰瘍性大腸炎治療/急性胆のう炎治療/上部消化管腫瘍に対する最新の内視鏡治療」聖マリアンナ大学消化器内科助教・東京大学消化器内科教授
- 30/(月) 「薬剤性消化管傷害の現状」新東京病院消化器内科主任部長
「消化器外科における松戸市のロボット支援手術の現状」新東京病院副院长・千葉西総合病院外科部長・新松戸中央病院院長
- *最近NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）の予後の危険性を巷で言われていますがBやC型肝炎の発がんを除いて、アルコール摂取による肝炎の方がより発がんの危険があることがわかっています。それはより肝の線維化への進行が速い事が関係しているようです。

1年間に1回 検診を受けましょう

自分の身体を知る チャンスです。

予約お待ちしています。青木

